

編集後記

春三月、卒業生を送ると共に、「史観」第一四四冊をお届けします。本冊には、「図書」の使用実態からみた近世前期の日朝関係を扱う米谷論文、満州事変に始まる十五年戦争頃の石橋湛山をとりあげた上田論文、冊命形式から周王朝中期以降の支配構造を理解しようとした岡本論文、二〇世紀初頭、第一次革命前の農民統治政策を追究した草野論文、朝鮮半島無文土器時代の多鈕粗文鏡を精査し、青銅器文化の編年に及んだ宮里論文、紀元前六千年紀の中部メソポタミア地域「サマッラ土器」を取り上げ、北方への展開をあとづけた小高論文を掲載しました。

大学院博士後期課程に在籍する若手研究者を主とする荒削りではあるが、勢いと意欲のある論文をお読みいただきたいと思います。

さらに彙報欄でお知らせしたように、平成十二年度早大史学会大会は、一〇月一四日に「植民地（コロニアリズム）と近代歴史学」のテーマで、公開シンポジウムを開催しました。李成市、松園伸両氏の報告をもとに、日本史、アジア史、西洋史、考古学の共同討論によって、近代歴史学の再検討を行いました。こうした試みの積み重ねが、新たな枠組みを構築し、歴史研究を推し進めてゆくものと考えています。

（岡内三眞）

執筆者紹介（掲載順）

- | | |
|--------|--------------|
| 米谷 均 | 日本学術振興会特別研究員 |
| 上田 美和 | 本学大学院博士後期課程 |
| 岡本 真則 | 本学大学院博士後期課程 |
| 草野 佳矢子 | 本学文学部助手 |
| 宮里 修 | 本学大学院博士後期課程 |
| 小高 敬寛 | 本学大学院博士後期課程 |

史観

平成十三年三月二十日印刷
平成十三年三月二十五日発行

第百四十四冊
定価 一千円

編集者 瀬野 精一郎

印刷所 大文堂印刷株式会社
発行所 早稲田大学史学会

東京都新宿区戸山一―二四―一
電話東京（三三〇三）四一四二番
振替〇〇一九〇―八一―四六二九